

第2 茨城県の交通事故

1 県内の交通事故発生状況

(1) 概要

発生件数は平成12年をピークに翌年から5年連続で減少し、負傷者数は前年に比べ僅かに増加した。死者数は266人と前年より25人減少し、平成15年に続いて2年連続300人を下回った。

本県の死者数の全国順位は、全国ワースト第11位と昭和46年以降34年振りにワースト第10位以内から脱却した。

(2) 第1当事者の年齢別発生状況（P26参照）

「20歳代」は発生件数が6,107件（構成率25.7%）、死亡事故件数が57件（構成率22.4%）で最も多い年齢層になっているが、前年比では発生件数（-85件）、死亡事故件数（-14件）ともに減少している。

「高齢者」（65歳以上）の発生件数は2,465件（構成率10.4%）、死亡事故件数は50件（構成率19.6%）で、前年比では発生件数（+95件）、死亡事故件数（+12件）ともに増加した。

(3) 月別発生状況（P36参照）

発生件数は「12月」が2,110件で最も多く、次いで「11月」（2,095件）、「8月」（2,075件）の順となっており、特に年末の時期に多くなっている。前年比では「11月」（+276件）、「8月」（+227件）が大きく増加し、「12月」（-225件）、「10月」（-194件）、「5月」（-158件）が大きく減少した。

死者数では「12月」が43人で最も多く、他の月の平均（23.1人）に比べ約2倍となっている。前年比では「12月」（+15人）の増加が多く、「11月」（-13人）、「1月」（-12人）、「2月」（-10人）が大きく減少した。

(4) 曜日別発生状況（P39参照）

発生件数は「金曜日」が3,754件で最も多く、「日曜日」（2,760件）が最も少ない。他の曜日はほぼ同数となっている。前年比では「水曜日」（+63件）の増加が多く、「月曜日」（-70件）が大きく減少した。

死者数は「土曜日」（48人）、「月曜日」（47人）が多く、前年比では「月曜日」（+6人）が増加し、「火曜日」（-14人）が大きく減少した。

(5) 時間別発生状況（P41参照）

発生件数は「8時～9時」の2,078件が最も多く、次いで「17時～18時」の2,058件の順となっている。前年比では「12時～13時」（+88件）、「18時～19時」（+86件）が増加し、「14時～15時」（-96件）、「7時～8時」（-95件）が減少した。

死者数では「18時～19時」の20人が最も多く、次いで「23時～24時」の19人の順となっている。前年比では「23時～24時」、「1時～2時」などの深夜から早朝にかけての時間帯（23時～6時）が大きく増加（+25人）し、「12時～13時」、「15時～16時」などの午後の時間帯（12時～17時）が大きく減少（-38人）した。

(6) 路線別発生状況 (P 43参照)

発生件数は「市町村道」の10,003件(構成率42.1%)が最も多く、次いで「国道」の6,895件(構成率28.9%)、「県道」の5,968件(構成率25.1%)となっている。死者数では「県道」の92人(構成率34.6%)が最も多く、次いで「市町村道」の85人(構成率32.0%)、「国道」の79人(構成率29.7%)の順となっている。

(7) 道路形状別発生状況 (P 52参照)

発生件数は「交差点」の9,938件(構成率41.8%)が最も多く、次いで「直線」の9,159件(構成率38.5%)の順となっている。前年比では「カーブ」(-115件)が減少した。

死者数は「直線」の115人(構成率43.2%)が最も多く、次いで「交差点」の88人(構成率33.1%)の順となっている。

(8) 第1当事者の車両別発生状況 (P 55参照)

「普通乗用自動車」が発生件数14,493件(構成率61.0%)、死亡事故件数118件(構成率46.3%)で最も多い。発生件数の前年比では「軽乗用自動車」(+295件)の増加が多く、「原動機付自転車」(-201件)が大きく減少した。

(9) 第1当事者の事故類型別発生状況 (P 59参照)

発生件数は「追突」が8,936件(構成率37.6%)で最も多く、次いで「出合頭衝突」の6,233件(構成率26.2%)の順となっており、この2つで全事故件数の6割以上(構成率63.8%)を占めている。前年比では「追突」(+280件)が特に増加し、車両単独の「工作物衝突」(-244件)、「転倒」(-104件)が大きく減少した。

死者数では「歩行者横断中」の50人(構成率18.8%)が最も多く、次いで「出合頭衝突」の45人(構成率16.9%)の順となっている。前年比では「出合頭衝突」(-20人)、「工作物衝突」(-12人)が減少した。

(10) 第1当事者の原因別発生状況 (P 65参照)

発生件数は前方不注意や安全不確認等の「安全運転義務違反」が19,393件(構成率81.6%)と最も多く、次いで「信号無視」の928件(構成率3.9%)、「一時不停止」の811件(構成率3.4%)の順となっている。

死亡事故件数では「前方不注意」の54件(構成率21.2%)が最も多く、次いで「最高速度違反」の28件(構成率11.0%)、「安全速度」の26件(構成率10.2%)の順となっている。前年比では「最高速度」(-21件)、「前方不注意」(-16件)が減少した。

(11) 警察署別・市町村別発生状況 (P 71~74参照)

警察署別発生件数では「水戸署」の3,550件が最も多く、次いで「土浦署」の2,117件、「つくば中央署」の1,661件、死者数では「境署」の22人、次いで「水戸署」の21人、「土浦署」の19人の順となっている。

市町村別発生件数は「水戸市」の2,878件、次いで「つくば市」の1,791件、「土浦市」の1,569件、死者数では「つくば市」の17人、次いで「水戸市」、「土浦市」の各14人の順に多い。

人口1,000人当たりの発生件数は、「土浦市」(11.59件)、「水戸市」(11.55件)「千

代田町」(10.36件)の順に多い。

(12) 年齢状態別死傷者数 (P 95、98、101参照)

状態別では「四輪車運転中」が死者数(93人構成率35.0%)、負傷者数(17,757人構成率57.5%)ともに最も多くなっている。

年齢別死者数では「高齢者(65歳以上)」が106人で最も多く、その状態別は「歩行中」44人(構成率41.5%)、「四輪車運転中」23人(構成率21.7%)、「自転車乗用中」15人(構成率14.2%)の順となっている。

年齢別負傷者数では「20歳代」が6,965人で最も多く、その状態別は「四輪車運転中」が4,704人で約7割(構成率67.5%)を占めている。

(13) シートベルト着用状況 (P 105参照)

四輪車乗車中の死者121人中、79人(構成率65.3%)がシートベルトを着用していなかった。このうち42人(構成率53.2%)は、シートベルトを着用していれば助かった可能性があった。

負傷程度別のシートベルト着用率は、負傷無し(98.2%)、軽傷(91.0%)、重傷(78.5%)、死亡(34.7%)と、着用率の低下に伴い負傷程度も重くなっており、シートベルト着用が大きな効果を上げていることがわかる。

(14) 飲酒運転(原付以上、酒酔い運転を含む。)による交通事故 (P 110参照)

発生件数は432件(構成率1.8%)、死亡事故件数は28件(構成率11.0%)、死者数は29人(構成率10.9%)で、死者数の全国順位はワースト第7位である。

第1当事者の年齢層別死亡事故件数は、20歳代が10件(構成率35.7%)と最も多く、次いで30歳代の8件(構成率28.6%)の順となっており、この2つの年齢層で6割以上(構成率64.3%)を占める。

時間別の発生件数では、夕方から深夜にかけての時間帯(18時~4時)に多いが、特に19時から21時、22時から翌日2時までの時間帯に集中している。

(15) 無免許運転による交通事故 (P 113参照)

発生件数は196件(構成率8.3%)、死亡事故件数は12件(構成率4.7%)で、前年比では、発生件数は減少(-30件)し、死亡事故件数は増加(+1件)した。発生件数は平成13年以後、4年間連続で減少している。

(16) 最高速度違反による交通事故 (P 115参照)

発生件数は57件(構成率0.2%)で全事故に占める割合は少ないが、死亡事故件数では28件(構成率11.0%)と死亡事故の大きな要因となっている。

(17) 子供(中学生以下)が関係した交通事故 (P 117、118参照)

発生件数は「幼・園児」が496件、「小学生」が857件、「中学生」が543件で、前年比では「幼・園児」(+14件)、「小学生」(+43件)、「中学生」(+4件)いずれも増加した。

死者数は、「幼・園児」が5人、「小学生」が3人、「中学生」が2人で、前年比では「幼・園児」「中学生」が増加(各+2人)し、「小学生」が減少(-1人)した。

状態別死傷者数では「幼・園児」「小学生」は四輪車同乗中(構成率 幼・園児74.7%、

小学生42.7%)が、「中学生」は自転車乗用中(構成率63.5%)が多い。原因別にみると、自転車乗用中では「安全不確認」(構成率27.0%)が、歩行中では「飛び出し」(構成率34.7%)が多い。

(18) 高校生の交通事故 (P 122参照)

高校生が関係した事故は、発生件数が1,395件(構成率5.9%)、死者数が13人(構成率4.9%)で、前年比では発生件数は減少(-30件)し、死者数は増加(+7人)した。

状態別死傷者数では、自転車運転中(構成率41.5%)、原付運転中(構成率28.6%)、四輪車同乗中(構成率19.0%)の順となっている。

死者数は、四輪車同乗中が5人で最も多く、次いで原付運転中、歩行中が各2人となっている。

(19) 青少年(16~24歳)の交通事故 (P 125参照)

青少年が関係した事故は、発生件数が8,343件(構成率35.1%)、死者数が34人(成率12.8%)で、前年比では発生件数が減少(-224件)し、死者数が増加(+4人)した。

青少年は平成5年まで死者数の最も多い年齢層であったが、平成6年からは高齢者と入れ替わり、以後減少傾向にある。

状態別死傷者数は、四輪車運転中(構成率46.6%)、四輪車同乗中(構成率21.9%)、原付運転中(構成率12.0%)、自転車運転中が(構成率11.5%)の順となっている。

青少年運転者(原付以上)による事故は、発生件数が4,843件(構成率20.4%)で、前年比では発生件数(-162件)、死亡事故件数(-13件)とも減少した。死亡事故の原因別では前方不注意(構成率23.3%)や安全速度(16.3%)、最高速度、右側通行(各11.6%)が、類型別では正面衝突(構成率25.6%)、歩行者横断中(構成率20.9%)が多い。

(20) 高齢者(65歳以上)の交通事故 (P 129参照)

高齢者が関係した事故の発生件数は、4,760件(前年比+185件)で過去最高を記録した昨年を上回り、増加が続いている。死者数は106人(構成率39.8%)で前年より減少(-11人)したが、引き続き「死者数が最も多い年齢層」となっている。

状態別死者数は、歩行中が44人(構成率41.5%)、自転車乗用中が15人(構成率14.2%)で、両者で5割以上(55.7%)を占めている。

高齢運転者(原付以上)による事故は、発生件数が2,352件(前年比+99件)と増加傾向が続いている。死亡事故件数は49件(構成率19.2%)で前年より11件増加した。

(21) 男女別運転者による交通事故 (P 132参照)

発生件数は男性が約6割(構成率64.9%)、女性が約4割(構成率35.1%)を占めている。前年比では発生件数は男性、女性ともに僅かに増加、死亡事故は男性が大きく減少(-25件)した。

発生件数を平成7年と比較すると、男性の微増に対し、女性は約1.3倍増加している。

死亡事故を起こした年齢層別では男性女性ともに「20歳代」が最も多く、類型別では男性が「歩行者横断中」、女性は「出合頭衝突」が多くなっている。

(22) 初心運転者による交通事故 (P 134参照)

発生件数は1,399件(構成率5.9%)、死亡事故件数は6件(構成率2.4%)で、前年比では、発生件数(-140件)、死亡事故件数(-6件)ともに減少した。

年齢層別では「20歳未満」が最も多く、発生件数が1,032件(構成率73.8%)、死亡事故件数が4件(構成率66.7%)となっている。

時間別では、発生件数は朝(7時~9時)と夕方から夜にかけて(16時~20時)の時間帯に多くなっているが、死亡事故では夜から深夜(22~2時)に集中(構成率66.7%)している。

(23) 県外者による交通事故 (P 135参照)

発生件数は2,814件(構成率11.8%)、死亡事故件数は37件(構成率14.5%)で、前年比では発生件数(-60件)は減少し、死亡事故件数は同数だった。

路線別では、発生件数、死亡事故件数とも「国道」が最も多く、都道府県別では隣接する「千葉」「栃木」「埼玉」居住者が多くなっている。

(24) 事業用自動車による交通事故 (P 136参照)

発生件数は1,131件(構成率4.8%)、死亡事故件数は26件(構成率10.2%)で、前年比では発生件数(-3件)、死亡事故件数(-5件)ともに減少した。

車種別では「貨物車」が最も多く、発生件数が964件(構成率85.2%)、死亡事故件数が22件(構成率84.6%)となっている。

死亡事故は、路線別では「県道」(構成率42.3%)「国道」(構成率38.5%)の順に多く、両者で全体の約8割(構成率80.8%)を占めており、年齢層別では「50歳代」「30歳代」が多くなっている。

(25) ダンプカーによる交通事故 (P 137参照)

発生件数は128件(構成率0.5%)、死亡事故件数は1件(構成率0.4%)で、前年比では発生件数(-12件)、死亡事故件数(-2件)ともに減少した。

発生件数の特徴は、類型別では「追突」が54件(構成率42.2%)で最も多く、次いで「出会頭衝突」の23件(構成率18.0%)の順になっており、時間帯別では「8~9時」「11~12時」が多く、朝から午前中の時間帯(6時~12時)が約6割(57.8%)を占めている。

(26) 二輪車の交通事故 (P 138~139参照)

二輪車が関係した事故は、発生件数が2,686件(構成率11.3%)、死者数が37人(構成率13.9%)で、発生件数(-191件)、死者数(-6人)とも減少した。

このうち原付の発生件数は1,872件(構成率7.9%)、死者数は19人(構成率7.1%)で、前年比では発生件数(-238件)、死者数(-10人)とも減少した。

二輪車の死者37人中ヘルメット着用は34人(構成率91.9%)であった。

二輪車による事故は、発生件数が986件(構成率4.1%)、死亡事故件数は20件(7.8%)で、前年比では発生件数(-211件)、死亡事故件数(-10件)とも減少した。

死亡事故の特徴では、事故を起こした年齢層別は「70歳以上」が最も多く、事故類型別では「出合頭」、事故原因別では「優先通行妨害」、「一時不停止」の順に多くなっている。

(27) 自転車の交通事故 (P 140 ~ 141 参照)

自転車に関係した事故は発生件数が3,253件(構成率13.7%)、死者数が29人(構成率10.9%)で、前年比では発生件数(-42件)、死者数(-12人)ともに減少した。

死傷者数では、事故類型別は「出合頭衝突」、原因別は「安全不確認」が最も多くなっている。

(28) 歩行者の交通事故 (P 143 ~ 144 参照)

歩行者に関係した事故は、発生件数が1,618件(構成率6.8%)、死者数が74人(構成率27.8%)で、前年比では発生件数が増加(+22件)し、死者数は減少(-2人)した。

死傷者数は、時間帯別では「16時~20時」が3割以上(構成率33.8%)を占めており、事故類型別では「道路横断中」、原因別では「飛び出し」、「車両の直前後横断」が多い。

(29) 外国人の交通事故 (P 146 参照)

外国人に関係した事故は、発生件数が576件(構成率2.4%)、死者数が4人(構成率1.5%)で、前年比では発生件数は増加(+30件)し、死者数は減少(-2人)した。

外国人の関関係した事故を平成7年と比較すると、発生件数が約2.3倍、負傷者数が約2.4倍といずれも倍増しており、増加傾向が続いている。

外国人による事故は、発生件数が312件(構成率1.3%)、死亡事故件数が1件(0.4%)で、前年比では発生件数が増加(+40件)し、死亡事故は減少(-2件)した。

国籍別発生件数では「イラン」が最も多く、次いで「朝鮮・韓国」、「ブラジル」、「中国・台湾」の順になっている。

(30) 踏切事故 (P 148 参照)

発生件数は6件、死亡事故件数は1件、死者数は3人で、前年比では発生件数、死亡事故件数はともに同数、死者数は2人増加した。

(31) 物損事故 (P 149 参照)

発生件数は70,574件で、前年比2,913件増加した。平成7年と対比して約1.3倍と、増加傾向にある。